# 今求められている支援のあり方

## ―小学校における子どもと親と教師をつなぐより良い関係づくり―

高知市立江陽小学校　　教　　諭　　谷中　和代
高知県心の教育センター　指導主事　　徳永智惠子

子どもたちが相互に支え合い、認め合い、学び合うことができる学級集団を目指して、構成的グループエンカウンターや心の冒険教育やピア・サポートなどの人間関係づくりの理論と手法を学級活動に取り入れた。また、気になる子どもには学級担任を中心に教職員でチームをくみ支援会を開き、具体的なその子どもに合った支援をしてきた。

さらに保護者にも人間関係が深まる取組をし、本音で語れる雰囲気や子どもを中心にした連携ができる関係を育んだ。

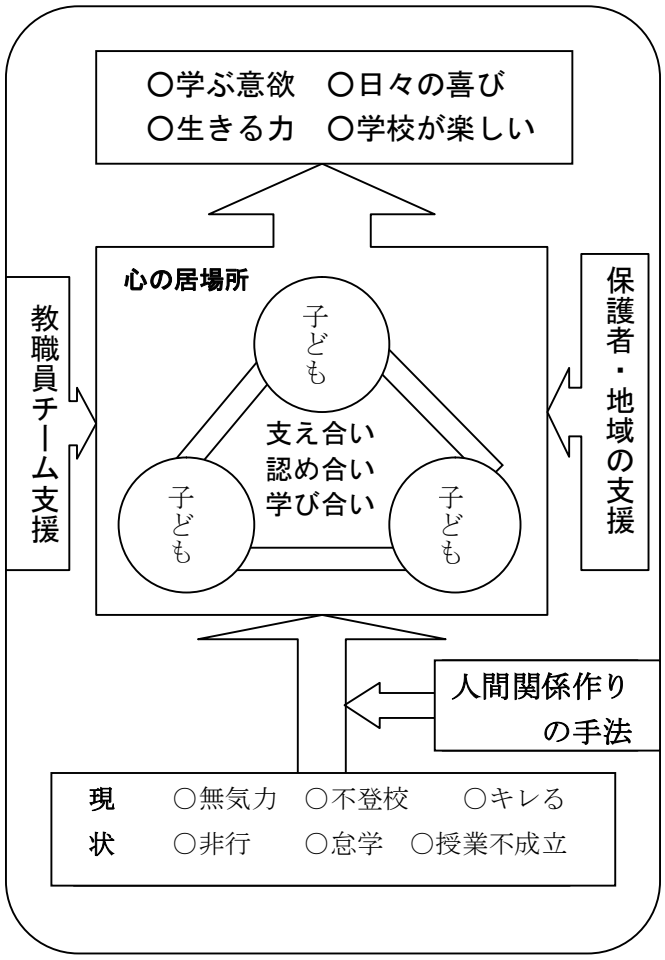
キーワード：人間関係づくり、チーム支援、保護者支援、居心地の良いクラスにするために

### 1　はじめに

今年度研究生として学校から少し離れてみると、しみじみと感じることがある。日頃、子どもたちを支援していると思っていたのが、実は反対に子どもたちにエネルギーをたくさんもらっていたのだということである。かかわりのあった子どもたち一人一人の顔が浮かんでくる。すばらしい感性と可能性を秘めたたくましい子どもたちである。

しかし、子どもたちを取り巻く環境は、年々厳しくなっている。少子化や核家族など地域の結びつきも弱く、人間関係がどんどん希薄になってきている。教室の子どもたちの中には学習意欲を持ちにくく、寂しさやしんどさを訴えてくる子どもや、刹那的で耐性が弱くキレやすい子どもも、増えてきている。

今この子どもたちに必要なもの、求められる支援は、「人と人とを結ぶこと」だと考える。そして、学校こそが、子どもたちを中心にして、教職員や保護者、地域を結んでいかなくてはならないと思う。子どもたちが、確かな心の結びつきを感じること




基本構想図

ができた時、学校は、あるがままの自分を認めてくれる心の居場所であり、仲間に温かく支えられ、学ぶ喜びを味わうことができる大切な場所となるからである。

品田は、『サインを発している学級』の中で、次の２点について述べている。一つは、小学校での発達課題は、「自分に対する自信を身につける」ことと「学ぶ楽しさと勤勉性・意欲を身につける」ことであるということ。二つには、いま、学校教育の深刻な問題として、いじめや不登校、キレる、暴力、怠学、非行、授業不成立等があげられるが、その原因は、「人間関係を形成する意欲と技術」「社会性」「我慢する力」の欠如であるということである。また。これら３点の力をつけるには、学級集団に良質な集団体験をさせることである。」と述べている。※１

そこで、良質な集団体験をさせるためにより良い人間関係を築くための理論と手法を授業に取り入れることによって、教師と子ども、子どもと子どものリレーションを深め、ルールが確立された教育力のある学級集団ができると考えた。

本研究では、その手法を文献や研修で学び、学級或いは保護者を対象に実施することにより、その効果を検証する。

## ２　研究仮説

(1) 授業に人間関係づくりの理論と手法を取り入れることによって、教師と子どもの関係や子ども同士の関係にふれあいが生まれ、ルールが確立されることにより、子ども一人一人が自尊感情を高め、学ぶ意欲を持つことができるのではないか。

(2) 教師と保護者間にも、同じく試みることによって、本音の交流ができるようになり、信頼と連携による確かな支援体制が築かれるのではないか。

## ３　研究内容

(1) 人間関係を育てる指導方法の基礎研究

①　構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter 以下ＳＧＥとする）

ＳＧＥは、国分康孝氏が提唱する思想・哲学を縦糸にカウンセリングの理論・技法を横糸にして織り上げた教育技法である。各種の課題（エクササイズ）を遂行しながら、心と心のふれあいを深め、自己の成長を図ろうとするグループ体験でもある。

参加者のモチベーションやレディネスによって、グループのサイズや時間、ルールなどを構成することができ、教育現場では、問題が発生する前の予防開発的なカウンセリングとして多く取り入れられている。

構成する４つの要素には、エクササイズの設定、エクササイズのグループサイズ、エクササイズの時間、ルールの設定などがある。エクササイズは①自己理解②自己受容③自己表現・自己主張④感受性⑤信頼体験⑥役割遂行などがあり、どれか１つが主たるねらいとなり、それが達成されることで本音と本音の交流が促進される。（例　Ｐ 30　指導案参照）

１時間の流れ

①　ねらいと内容の説明 ― ②ウォーミングアップ ― ③ウォーミングアップに対する教師のフィードバック ― ④インストラクション ― ⑤エクササイズの実施 ― ⑥シェアリング ― ⑦まとめ

シェアリングは、エクササイズを通して学んだこと、考えたこと、感じたこと、気づいたこと

などを振り返り、分かち合うことで、気づきや感情を明確化し、ねらいを定着させる働きをもつ。

② 心の冒険教育（ＰＡ）

プロジェクトアドベンチャー（ＰＡ）は、1971 年にアメリカの高校の教員を中心に学校教育に取り入れられるようになったものである。手法は冒険教育をベースにして、体験学習の手法を取り入れたもので、グループ活動を通して、協力し合える人間関係をつくる。

高知県の取り組む「心の冒険教育」は、人と人とのふれあいに焦点をあて、仲間と一緒にお互いが助け合い、協力しながらいろいろな活動にチャレンジしていく。活動は、参加者に応じて設定され、困難な課題に向き合うこともある。活動を共にする中で、信頼関係を築き、個人の内面的成長、更にはグループの成長のみならず、不登校やいじめ、非行等の未然防止に役立てようとするものである。

③ ピア・サポート活動

ピア(Peer)は仲間、サポート(Support)は援助・支援を意味する。様々な方法でトレーニングを受けたサポーターが、課題を抱えている仲間が自分自身の力で困難を乗り越えていけるよう支援する活動である。

サポーターは、トレーニングを通して、コミュニケーション・スキルと仲間を思いやることの大切さを学び、それによって主体的に行動することができるようになる。

高知県が取り組んでいるピア・サポート活動のねらいは、子どもたちの豊かな心を育てることで、子どもたち自身がコミュニケーション能力を高め、互いに支援し合う活動を学校教育に広げることで、相手を思いやる温かな学校風土を培うというものである。

(4) 研修会への参加（人間関係づくりに関する研修）

次のような研修会や授業に参加・参観し、研修を深めた。

| 月　日 | 研　修　名 | 研修内容 |
|---|---|---|
| ４月９日 | 太平洋学園研修会 | 心の冒険教育 |
| ４月 26 日 | 研究生研修会 | 心の冒険教育 |
| ５月 15 日 | 心の冒険教育交流会 | 心の冒険教育 |
| ６月２日 | 春野中学校校内研修 | ＳＧＥ |
| ７月７日 | 高岡第一小学校校内研修 | ＳＧＥ |
| ７月 22 日 | 吾桑小学校校内研修 | ＳＧＥ |
| ７月 26～28 日 | 心の冒険教育講座Ⅰ | 心の冒険教育 |
| ８月５日 | 江陽小学校校内研修 | 心の冒険教育 |
| ８月 18 日 | 高知市教育相談講座 | ＳＧＥ |
| ８月 19 日 | 高知市夏季教育研修 | ＳＧＥ |
| ８月 25 日 | ピアサポート研修会 | ピア・サポート活動 |
| ９月９日 | 大野見小校内研修 | ＳＧＥ |
| 11 月４日 | 一ツ橋小学校ピア・サポート活動 | ピア・サポート活動 |
| 11 月 17 日 | 日高中学校公開授業 | ＳＧＥ |
| 12 月２日 | 一ツ橋小学校授業見学 | ピア・サポート活動 |
| 12 月９日 | 介良潮見台小学校ＰＡ体験会 | 心の冒険教育 |

| | | |
|---|---|---|
| 12 月 10 日 | 大津中学校ピア・サポート授業 | ピア・サポート活動 |

(2)　人間関係づくりの実践

①　学校での授業、及び居心地の良いクラスにするためのアンケート（Ｑ－Ｕ）から見た学級や子どもの変化

ア　Ｑ－Ｕから見える学級の様子

Ｑ－Ｕは「いごこちの良いクラスにするためのアンケート」と「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の２つからなる。いごこちの良いクラスにするためのアンケートは本校では毎年２回実施しているが、学級の子どもたちの様子をより詳しく知るため、４回実施した。

６月のＱ－Ｕの結果から見ると、プロットの位置にばらつきがあり、全体の 80%が承認得点が低いことから、意欲がなくなってきていることが分かった。そして、被侵害得点が高い子どもが半数いて、学級全体にまとまりがなく、ルールが守られにくい状態であった。

教室での様子も合わせてみると、承認得点が低いもの同士で固まっていて、支持が通りにくく、周りと関係が持てず、孤立している子どもが見られた。学級担任からみても、日常の行動や様子が気になる児童が数人いた。そこで、気になる子どもへの支援をしながら、６月 21 から月３回の割合でふれあいタイムを実施した。

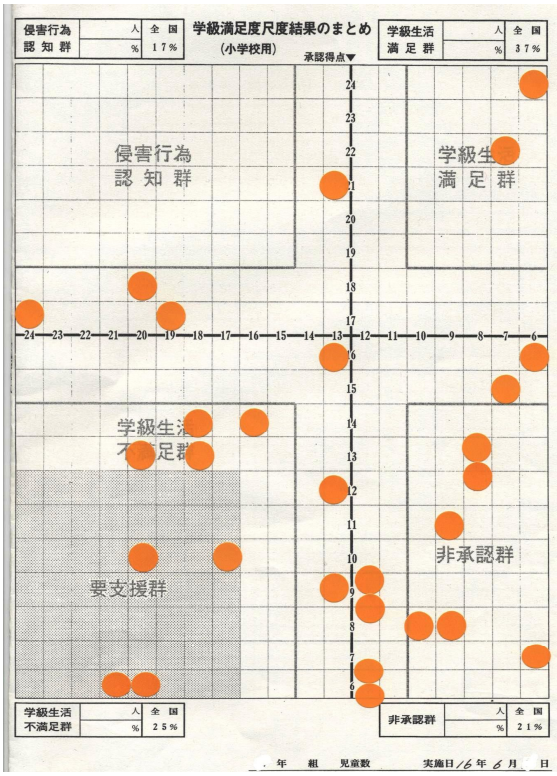
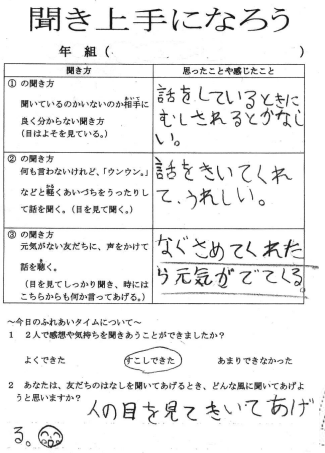
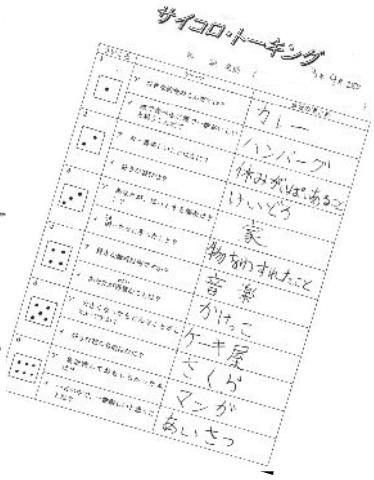



図１　学級生活満足度尺度（6 月）




ふれあいタイムの振り返りシート・ワークシート

イ　人間関係づくり（ふれあいタイム）授業実施一覧

| | 月日・時間 | ねらい |
|---|---|---|
| 第１回 | 6月22日（火）2時間目<br>９：４５～１０：３０ | エクササイズ**「質問じゃんけん」**<br>『自己理解・他者理解』 |
| 第２回 | 6月28日（月）懇談会<br>４：１０～４：５０ | アクティビティ**「ラインアップ他」**<br>『自己開示・協力』 |
| 第３回 | 7月8日（木）5時間目<br>２：００～２：４５ | アクティビティ**「風船列車」**<br>『仲間と気持ちを合わせる事の楽しさを味わう』 |
| 第４回 | 9月2日（木）5時間目<br>２：００～２：４５ | エクササイズ**「カムオン」**<br>『グループで協力して活動し、仲間意識を高める』 |
| 第５回 | 9月9日（木）学年懇談<br>３：５０～４：３０ | エクササイズ**「ごちゃまぜビンゴ」**<br>『他者理解』 |
| 第６回 | 9月14日（火）56時間目<br>２：００～３：２０ | アクティビティ**「モンスター工場」**<br>『自分や友達の良さを認め合う』 |
| 第７回 | 9月28日（火）2時間目<br>２：００～２：４５ | エクササイズ**「さいころトーキング」**<br>『互いのトークを聞きあって、親密感を深める』 |
| 第８回 | 10月12日（火）2時間目<br>９：４５～１０：３０ | エクササイズ**「たくさんクイズ」**<br>『互いの違いも認め合おう。』 |
| 第９回 | 10月19日（火）2時間目<br>９：４５～１０：３０ | エクササイズ**「絵合わせ」**<br>『互いに助け合い協力できる関係を作ろう。』 |
| 第10回 | 10月28日（木）5時間目<br>２：００～２：４５ | アクティビティ**「魔法使いと妖精」**<br>『グループで協力して活動し、仲間意識を高める。』 |
| 第11回 | 11月2日（火）学年懇談<br>４：１０～４：３０ | エクササイズ**「傾聴体験」**<br>『本音で語れる関係を作ろう。』 |
| 第12回 | 11月8日（金）5時間目<br>２：４５～２：４５ | エクササイズ**「ステキ発見」**<br>『認め合い助け合うことにより、信頼感を深めよう。』 |
| 第13回 | 11月19日（金）4時間目<br>１１：４５～１２：３０ | エクササイズ**「傾聴体験」**<br>『認め合い助け合うことにより，信頼感を高めよう。』 |
| 第14回 | 11月30日（火）2時間目<br>９：４５～１０：３０ | アクティビティ**「パイプライン」**<br>『自分の良さに気づき自己肯定感を深めることが出来る。』 |

6月下旬から検証授業も含めて、全部で14回のふれあいタイム（人間関係づくりの授業）を行った。

ウ　ふれあいタイム（関係づくり）指導案

第４回検証授業

1　エクササイズ名　　「傾聴体験」

2　ねらい　　・いろいろな聞かれかたを体験することにより、どういう態度で友達の話を聞いてあげれば、いやなことやしんどさを話すような気持ちになれるのか体験させる。

3　展開

| | 活動内容 | 支援と留意点 |
|---|---|---|
| 導入 | ウォーミングアップ<br>「まねまねミラー」<br>２人組になり、鏡の前に立って動作をする役と鏡の役に分かれ、まねさせる。 | ・はじめは、教師がやって見せる。<br>・鏡の役を交代させる。<br>・どんなことを感じたか２人で話し合わせる。 |
| 展開 | エクササイズ<br>「傾聴体験」<br>２人ペアになり、２通りの聞き方で互いに話を聞きあう。また、話す役と聞く役は替わり合って体験する。<br>１度目<br>・聞いてはいるが、どこか空ろな聞き方。（別方向を眺めたり、反応がなかったり等）<br>２度目<br>・返事はするが、あるいは頷くけれどこちらから話しかけたりはしない聞き方。（相槌を打つ、うなずく等）<br>応用編<br>・しょんぼりしている友だちに、声をかけ、話しやすい聞き方をする。（しっかり目を見て話を聴く。） | ・友だちにしてもらって嬉しい時はどんな時かを話し合わせる。<br>・いろいろな聞き方の例を、教師がやって見せる。（椅子の位置や、目線の高さについて等）<br>・３通りの聞き方を体験して、どういう気持ちになったか、あるいは、どういう気づきがあったかについてその都度、振り返る。<br>・聞き方例や感想や気づきを板書する。 |
| まとめ | シェアリング<br>・今日の活動を通しての感想や気づいたことについて、隣の友達と話し合い、みんなに聞いてもらいたいことを発表する。<br>・振り返り用紙に記入する。 | ・嫌なことも、友達や教師に話すことによって、楽な気持ちになることもあること、一人で悩まないことが大切であることについて声をかける。 |

本時の分析と考察

子どもたちの感想の中には、「友達がしょんぼりしていたら声をかけてあげたいと思う。」や「これからは友達の目を見て、真剣に話を聞いてあげたい。」などが出された。相手の感情を体験する良いエクササイズではないかと思うが、授業の振り返りでは、「もっと子どもに活動させる場面を取り入れるべきではないか。」や「傾聴と言うテーマはこの学年の児童には難しいのではないか。」などの課題が出された。

第５回検証授業

１　エクササイズ名　「ステキ発見」

２　ねらい

・友達のよいところを見つけることができる。

・自分のよいところを見つけてもらって、嬉しいと感じることができる。

・他の班の友達のよさなどを意欲的に見つけようとすることができる。

３　展開

| | 活動内容 | 支援と留意点 |
|---|---|---|
| 導入 | ○　ウォーミングアップ<br>「気持ちの本」の内容から「嬉しい気持ち」になるのはどんな時か等話し合い、自分のがんばりや良いところを分かってもらうと嬉しいことや、良いところを見つけることについて話し合う。 | ・気持ちにはいろんなものがあることや、自分の気持ちや感情を大切にして、それを誰かに素直に伝えてもよいことなどに気づかせる。<br>・どういうところを認めていけば良いのかいくつか例を挙げ、良いところはどんどん見つけられることに気づかせる。 |
| 展開 | ○　「ステキ発見」<br>・班の友達の良いところを発見し、シートに書く。<br>・シートを元に、付箋紙に清書して、カードに貼っていく。<br>・班以外の友達についても良いところを見つけて付箋紙に書いていく。<br>・友達が書いてくれた自分へのほめ言葉が書かれたカードを読む。 | ・シートに記入する際、あまり書けていない子どもについては、一緒に考えてやる。<br>・自分が貼れば隣に回し、本人には最後まで見せないようにする。<br>・班の友達全員に書けた子どもは、ほかの班の友達などにも書くように声かけする。 |
| まとめ | ○　シェアリング<br>・隣の友達とカードを読んで感じたことなどを話し合う。<br>・今の気持ちをカードに書く。 | ・友達の良いところに目を向けることは、難しく感じる子どもがいるかもしれないが、友達から認めてもらった喜びから、今後良いことに目を向けていくよう声かけをする。 |

本時の分析と考察

子どもたちは感想に、「９人もの友達に良いところを見つけてもらって嬉しかった。」や「いつも近くにいる人に良いところがいっぱいあることに気づいた。」と書いている。子どもたちは、自分の良いところや頑張りを友達に認めてもらって、カードに書いてもらうと何度も読み返すなど、満足げな表情を見せた。友達のがんばりを意欲的に書ける子や、時間をかけてじっくり書き進める子など様々だった。人とのかかわりの部分での良いところより学習面などでの良いところの方が多かったので、日ごろのかかわりがまだまだ希薄であることを感じた。

支援の仕方については、言葉を少なく明確にし、子どもからの質問が少なくなるような工夫をして、活動の流れやねらいをはっきり分からせる工夫が必要である。教材としては、互いのよさを認め合い、自尊感情を高めることができる良い教材で、３年生に適切であったと思う。

第７回検証授業

１　アクティビティ　「パイプライン」

２　ねらい

・パイプをつなげる活動によって、協力して成し遂げる楽しさを感じる。

３　展開

| | 活動内容 | 支援と留意点 |
|---|---|---|
| 導入 | ウォーミングアップ<br>「みんな鬼」<br>・決められたエリア内に広がる。<br>・リーダーの合図でみんなが一斉に走り出し誰かにタッチする。<br>・全員がタッチされたところでゲームは終わる。 | ・２人同時にタッチしたときは、どうするか確認しておく。（じゃんけんなど）<br>・タッチされたら、リーダーの下に集まることを確認。 |
| 展開 | 「パイプライン」<br>・ルールの説明をする。<br>・円になってボールをうまくつなげる。<br>（３グループに分かれる）<br>・縦の列になって、ボールを送る。<br>・上手くいけば、距離を伸ばしてボールを送る。<br>・最後に全員のパイプをつなげて、ボールを送る。 | ・前に出て実際に４～５人の子どもたちにやらせてみて、工夫点を考えさせる。<br>・力を合わせるために、みんなで心がけることを確認する。（失敗を責めない、声を掛け合う等）<br>・３グループにそれぞれ先生についてもらって、ボール渡しや審判をしてもらう。（ボールが落ちたら最初から）<br>・場合によっては作戦タイムをとる。 |
| まとめ | ・今日の活動を振り返り、感想を言う。<br>（楽しく活動できたか、協力して参加できたか、自分や友達の良さについて気づきがあったか等。）<br>・振り返りシートに記入する。 | ・できるだけ自分の言葉で言わせる。<br>・共感できたことには、みんなで喜び合う。<br>・みんなが協力することによって成功することができるし、喜びも大きい事を感じさせる。 |

本時の分析と考察

全員のパイプをつなげて上手くボールを運ぶという活動であるが、全員で嬉々として取り組むことができた。やっと成功したときは、歓声が上がり子どもたちの喜びが一つになった瞬間であった。途中、早く入れたいあまりボールをゴールまで持って走った児童がいて、残念がる声もあった。しかし後の振り返りでは、「皆が一生懸命パイプをちゃんと持って、汗をかきながらやっていました。最後にＡ君がずるいことをしてしまったけど、Ａ君も楽しかったからやったんだと思います。」と書いている児童がいた。個々の性格を理解しようとする心が育っていることに感激した。他にも、「皆がどうやったら上手くいくか話し合ったら、上手くいったから嬉しい。」や、Ｂちゃんが「ゆっくり。」と言ってくれたのがうれしかった。」などが出された。支援の仕方とし

ては、ルールを無視したような動きがあったとき、どう介入するかがリーダーに問われるところであるが不十分だったと反省する。また、子どもたちから聞こえてくるいろいろな気づきに対して、作戦タイムの前に取り上げるようにしたり、励ましたり等の支援について工夫する必要を感じた。

エ　Ｑ－Ｕから見える学級の変化

12月のＱ－Ｕを６月のものと比べて見てみると、プロットの位置が全体にまとまってきて、学級生活満足群に位置している子どもが、42％と大きく伸びてきている。学級生活不満足群にも31％プロットされているが、全体に承認得点が高くなり、被侵害得点も低くなってきていることから、意欲的で落ち着きがでてきたことが分かる。

実際に教室での様子も、学級全体が明るく、学習態度に落ち着きが見られるようになってきた。

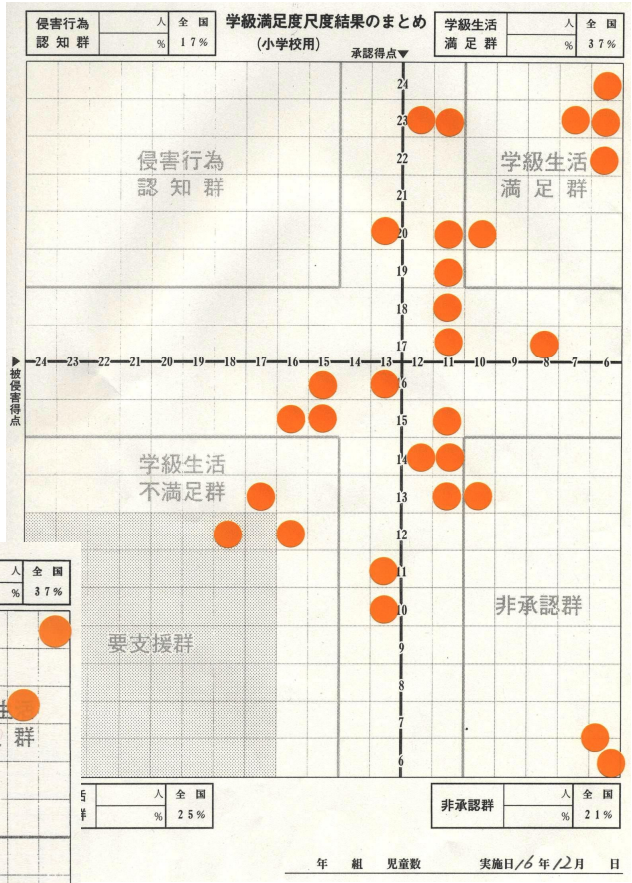



図２　学級生活満足度尺度（12 月）

これまで６月の現状やＱ－Ｕの結果等を踏まえて、日々の活動の中で、学級担任を中心として様々な取組を行ってきた結果、学級集団が大きく変化してきた。

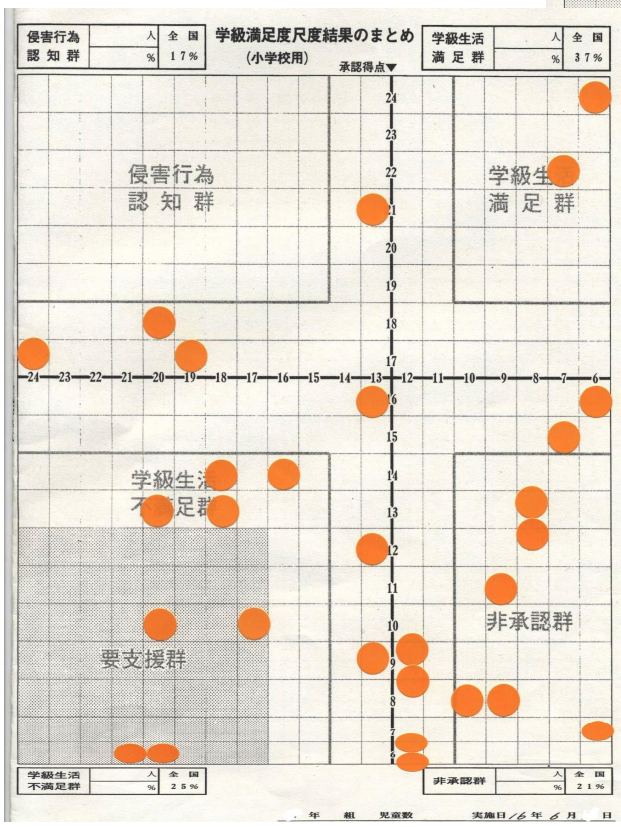



図１　学級生活満足度尺度（６月）

オ　Ｑ－Ｕや授業の振り返りから見られる個人の変化

ａ　学級生活不満足群にプロットされていた子どもたち

学級生活不満足群にプロットされていた子どもたちは、ほぼ全員が満足群へ近づく形で変化した。特に要支援群の４人は良い方向に変化した。

３の児童は、友達と上手くコミュニケーションをとることが苦手で、一人でいることが多かったが、ふれあいタイムの感想では、「今日は助けてもらえなかった。」から、「班の人がステキなところを見つけてくれて嬉しい。」や「パイプラインを皆でやって成功して嬉しい。」などと心の変化がみられるようになった。

10の児童は、侵害意識があり、自己肯定感も低いが、学級の仲間に対する感情が少しずつ好転してきて、「クラスにはいい人だと思う友達がたくさんいる。」とアンケートに答えている。

14の児童は、初めてのふれあいタイムでは、表情が硬く、肩たたきも１回もされてない人の中にいたが、言葉のプレゼントでは、「９人の人にほめてもらって嬉しかった。」や「助けたり助けられたりして楽しかった。」と書いている。

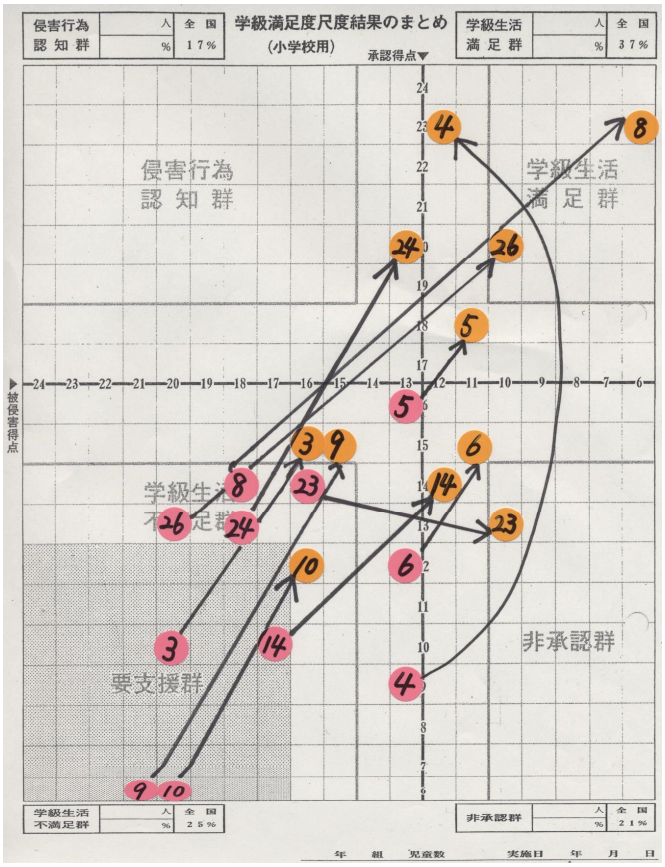



図３　学級生活満足度尺度

ｂ　気になる児童への手立て

Ａさんの場合（上記９の児童）３回までのＱ－Ｕの結果が、承認得点の低い位置で変化せず、侵害得点が低くなったり高くなったりを繰り返していた。Ｂさんの場合は、次第にプロットが下がってきており、３回目は要支援群の低い位置にあった。

この２人には、チーム支援会を開き、複数の教職員で支援していく具体的な案を話し合い、取り組んできた結果、プロットの位置が上がってきた。また、日常の様子も明るい表情がよく見られるようになってきた。

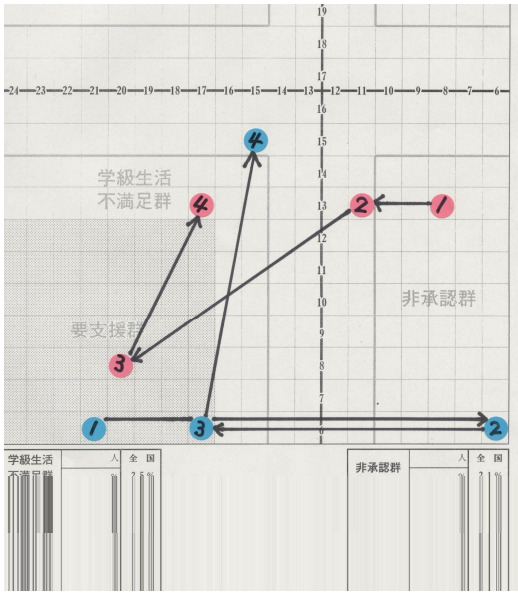



図４　学級生活満足度尺度

② 保護者と教師の関係づくり

学年懇談の時間を使って、これまで３回のふれあいタイムを実施し、簡単なアンケートをとった。アンケートの結果は次の通りである。

| 月　日 | 題　　材 | とても良かった | ふつう | やりにくさを感じた |
|---|---|---|---|---|
| 6月28日 | 「ラインアップ」 | 100% | ０% | ０% |
| | 「インパルス」 | 57% | 43% | ０% |
| | 「Have you ever」 | 57% | 29% | 14% |
| ９月９日 | 「ＥＦＴ（感情開放療法）」 | 14% | 71% | 15% |
| | 「ごちゃまぜビンゴ」 | 57% | 29% | 14% |
| 11月２日 | 「キャッチ」 | 50% | 50% | ０% |
| | 「ジップザップ」 | 70% | 20% | 10% |
| | 「傾聴体験」 | 70% | 20% | 10% |

保護者の感想（抜粋）

・体験の中で自分を振り返ることができた（反省のほうが多かったですが）。話し合いの場にこのようなものを加えてもらったことはとても新鮮でした。ほかの保護者を身近に感じることができ、とても良かった。

・傾聴体験、本当に大切なことですがついつい忘れがちです。自分の事を聞いてもらえると、人を大切にしようとする気持ちにつながるのですよね。

・傾聴体験は、日ごろの子どもとのやり取りを思い出しすごく反省しました。忙しいばかりで子どもの話をきちんと聞いていないことに気づく（本当はそうしていかなければ日々まわらないように感じていた）いいチャンスでした。１日１回はきちんと向き合っていこうと思います。

・全体的には普段できない体験ができて、楽しく参考になりました。２日の傾聴体験では、聴くのは良かったのですが、人に向かって話すのが苦手なため、やりにくさを感じました。しかし、子どもや家族に自分がどのように対応しているかの反省にもなりアクティビティとしては有意義だったのではないかと思います。

・今回初めてでしたが、とても楽しくできました。特に傾聴体験では、頭ではちゃんと顔を見て聞くことが大事と分かっていながらつい何かをしながらになっていたので反省しています。実際にやってみて、よそを見ている人に話をするのは話す気がしないものだと実感しました。

分析と考察

懇談前の短い時間だったので時間的に余裕がなかったが、それでも本音で語り合えるという効果を感じた。また、保護者の表情も明るく、協力的でとてもやりやすいと感じた。年度当初から学級担任を中心にこういう時間を持つことによって、本音で語れる関係が少しずつできていくのではないかと思う。

保護者の中にも、人と話したりすることが苦手であったり、近所や保護者同士の人間関係が結びにくく、一人で悩んでいたりということもあろうかと思う。孤立させず誰かとつながっていることが大切だと思うが、その結びつきのきっかけになるのではないかと考える。

③　チーム支援会への参加

本校の教育相談活動の中の支援活動として、校内支援委員会（学期に１度）とチーム支援会がある。前者は「一人一人の子どもを大切にするために」（学級担任が支援が必要と思われる児童について気づいたことなどを記入した資料）を基に、子どもたち一人一人がどういった課題を持ち、どういうニーズがあるのかを全体に共通認識する。そして、後者のチーム支援会は個々の子どもへの具体的な支援案を話し合うのである。

今回検証授業を行った学級について、或いは子どもについて支援会を持ち話し合い、子どもの変容を見ることができた。居心地の良いクラスにするためのアンケート（Ｑ－Ｕ）のこれまでの結果やかかわりのある教職員の気づきを元にチーム支援会を持った。（メンバー：担任、教頭、児童指導部長、養護教諭、特別支援コーディネーター、Ｔ・Ｔ担当）

それまでの取組によって良くなってきている児童もいるが、学級担任が気になる子どもや困ってい事について話し合った結果、気になるＢに個別に話をして気持ちを受け止めていくことや、後日もっと具体的な支援会をすることを決めた。その後、学年団と管理職で支援会を持った。そして、担任やＴ・Ｔ担当や学年団を中心に支援をしていった。

具体的な取組

・学級担任が、日々の授業の中で頑張りをほめたり励ましたりなど意識的にしてきた。
・学年全体で音読に取り組み（毎週木曜日）、詩の朗読などをした。給食の当番は、学年で並んで一緒に行く事にし、時間を守ることを大切にしたり、学年団として行動することを意識させたりした。
・Ｔ・Ｔが毎日の朝の会を支援した。
・教頭が給食の時間を一緒にすごし、絵本の読み聞かせなどをした。

学級集団アセスメント　　2004,10、22

| |
|---|
| 〈①学級集団の背景〉第３学年総数２９名（男子１７名・女子１２名）<br>・緊張している状態が続いている。 |
| 〈②問題と感じていること〉<br>・授業の私語が多い。・ルールが守れない。<br>・男女が一緒に行動できない。<br>・人の行動をからかったり、笑ったりする声が良く聞こえる。 |
| 〈③態度や行動が気になる児童生徒〉<br>・ｃ（ルールが守れない、言葉遣いが乱暴,たち歩きがある）<br>・ｄ（ｃと行動を共にしている）<br>・その他（、E、F、G、H、I、J、K、L、M等） |
| 〈④プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる児童生徒〉<br>・N |
| 〈⑤学級内の小グループを形成する児童生徒〉<br>・男児…（ｃ、ｄ、O、D、F)、(F、P)<br>・女児…（H、J、K,Q) |
| 〈⑥４群にプロットされた児童生徒に共通する特徴〉<br>満足群…元気な女の子が多い<br>非承認群…影が薄い子ども<br>侵害行為認知群…落ち着いて学習している<br>不満足群…ａｂ |
| 〈⑦担任教師の方針〉<br>○学級経営…皆でやることはやる、自分で決める。（レクを取り入れたり、がんばりシールなどの工夫をしている。） |

## ４　研究のまとめと今後の課題

(1) 成果

14 回の検証授業での子どもたちの姿が初めと最後では大きく違う。２～３人で固まっていてなかなか指示が通らなかった子どもたち、振り返りに「おもしろくない。」や、「しんどい。」と書いた子どもたちだが、「またやりたいので３学期も来てください。」や、「気持ちを伝え合って他の友達と知り合ってとても良かった。」と書いていたり、Ｑ－Ｕのこんなクラスにしたいコーナーでは、「みんな元気にやっていくぞ、がんばる、けじめをつける！」と書いていたり、積み重ねるうちに子どもたちが大きく成長してきたことを感じる。もちろんこの授業だけの成果ではなく、学級担任の日ごろの取組や、Ｑ－Ｕを活用して気になる子どもへの教職員によるチーム支援会と具体的な支援などが、相乗的な効果を上げたのだろうと考える。

写真１　パイプライン

ふれあいタイムの中で仲間や教師にほめられたり、助けられたりする体験を繰り返す中で、温かい信頼の気持ちと自尊感情が育ち、次には協力して成功させようとする意欲や決められたルールは守ろうとする意識も育ってきた。

そして、保護者にも人間関係が深まる取組をする事によって、本音で語れる雰囲気や子どもを中心にした連携ができる関係を育むことができた。

(2) 課題

人間関係づくりの手法を研修会や文献で研究し実践してきたが、指示が徹底しなかったり、計画通り活動させることに精一杯だったりして、子どもへの支援の声や配慮が足らず、毎回反省することばかりだった。しかし、次第に子どもの感情面を大事にして寄り添っていくことや、つまずきを次の課題にして教師も子どもも成長していくことが大事だと思うことで、次への意欲につなげてきた。そして、結果として子どもたちの成長した姿を見ることができ、人間関係づくりの必要性を実感した。

写真２　全員でパイプライン

ただ、それぞれの手法が完全にはできていない状態で終わっているので、実践を続けていくことでリーダーとしての資質を高め、この効果を確かなものにしていきたいと思う。

小学校では、人間関係の基本は担任と個々の子どもが信頼関係で結ばれていることが大切なので、一人一人の子どもの置かれている状況をよく把握しておくことも必要だろうと思う。学級担任に分かることには限りがあるが、例えばＱ－Ｕで学級での居心地はどうなのかを知っていくことはできる。アンケートをとりっ放しにするのではなく、経過を観察し何らかの支援をしていくことで子どもと教

師の間に信頼が生まれてくると考える。研究の中で、個々の感情面の変化を見取っていったが、具体的な配慮の余地はまだまだあると思うので、今後に生かしていきたい。

また、学級担任が一人ではできない部分や見落としがちな部分を学年団など教職員がチームとなって補い合えることが、これからは必要になってくるだろうと思う。所属校では、Ｑ－Ｕの結果気になる子どもについてチーム支援会を持ち、学年団での取組が効果を上げている。このチーム支援の持ち方も、多忙感を持たせるだけにならないよう、支えあい人間味がある効果的な支援会となるよう、絶えず振り返り、改善していくことが大切だと思う。

最後に、保護者との関係作りであるが、「子ども自慢はやりにくかった。」や「家庭での子どもとのやり取りが頭に浮かび、考えさせられた。」などの感想からも、もっと保護者も誰かに聞いて欲しいし分かって欲しい部分があるのではと感じる。この人間関係づくりの手法を上手く取り入れながら、本音で向き合い、担任や教職員或いは、保護者同士がしっかり支えあえる関係ができるよう努力していきたい。

## ５　おわりに

授業の中で子どもたちが、互いを尊重しながら生き生きと活動し、思いを伝えようとする姿を見たとき、支え合う集団の力を感じた。今後も、子どもと子ども、教師と子ども、教師と保護者、そして地域が支えあうより良い関係づくりに努力していきたい。

この１年間、研究生として他校の校内研修会や様々な研修会へ参加することができたことや、ふれんどるーむ・ＣｏＣｏでの子どもたちとの出会いなど貴重で有意義な時間を与えて頂いたこと、また、本研究のために御協力いただいたたくさんの方々に深く感謝し、報告を終わる。

主な引用・参考文献


・国分康孝、国分久子監修（※１）
「サインを発している学級」　（株）図書文化社（2003 年）

・ディック・プラウティ、ジム・ショーエル、ポール・ラドクリフ著
「アドベンチャーグループカウンセリングの実際」　C.S.L 学習評価研究所（1997 年）

・ウイリアム・Ｊ・クレイドラー、リサ・ファーロン著
「対立がちからに」　C.S.L 学習評価研究所（2001 年）

・国分康孝著
「構成的グループエンカウンター」　（株）誠信書房（1992 年）

・国分康孝、片野智治著
「構成的グループエンカウンターの原理と進め方」　（株）誠信書房（2001 年）

・諸富祥彦著
「エンカウンターこんなときこうする！」　図書文化社（2000 年）